



西郷っ子

仲間を思いやる子

自ら学び考える子

たくましくやりぬく子



夏休みに上手に「子ども時代」をすごしてほしい

～ 1学期 70日間、元気に登校できました。～

校長 遠山 健二

今日は1学期終業式。70日間（土曜授業を除く）の1学期が終わり、明日から夏休みです。

この1学期も、残念ながら感染症対策をしながらの児童にとって制約、枠組みの多い学校生活となってしまいました。そこに6月末の猛暑…。マスクの対応をはじめ、熱中症対策をしながらの感染症対策は、なかなか厳しいものでした。

しかしながら、各ご家庭での毎朝の丁寧な検温・健康チェック、地域のボランティアの方々による登下校時の見守り、そして先週の自治会連合会の皆さんによる下校時の児童一人ひとりに対する「氷」の配布など、家庭・地域の方々のご支援は、本当にありがたいものでした。ご支援がなかったら、今の落ち着いた学校生活はありえません。心より感謝申し上げます。

さて、明日から42日間の夏休みが始まります。子どもたちは、健康で安全な生活が送れるよう、すでにいろいろな準備・計画を進めています。

「いつもクジラやサメのこと調べてるけど、夏休みもタブレットを使って図鑑を作ろうと考えてるよ。」

「『夢学』でやろうと思っていた新幹線のことを、夏休みは調べるよ。」

朝夕の校門では、夏休みにむけてのいろいろな声が聞かれます。

こうした「時間のたっぷりある夏休みだからこそやれそうな活動」、本当に素敵だと思っています。日頃は、学校という環境的な「枠組み」の中で、時間割という45分を単位とした時間の「枠組み」の中で、他者・集団と調整しながら生活（学習）しています。しかし、明日からの42日間は、そうした「枠組み」が取り払われ、自分自身の「マネジメント」で一日を過ごす日が多くなります。

教室・運動場といった環境を飛び出し、様々な遊び・学びが可能になります。45分という時間を超え、長い時間をかけて一つのことにじっくり取り組みます。また時には、（家族や時計をちょっぴり意識しながら）スイカやアイスを食べながらゴロゴロもできます。一日の「マネジメント」の多くが、子ども自身に委ねられるのです。生きていく上で、とても価値ある経験の場となります。

冒頭に述べたように、コロナ禍では子どもにとっての制限・枠組みが、とても多くなってしまっています。そうした中での明日からの夏休みです。自分で考え、自分で判断しながら、昔ながらの子どもらしい時間＝「子ども時代」を上手に過ごしてほしいと願っています。

